

**令和6年度第2回岐阜市公立大学法人評価委員会
議事録 概要**

【日 時】 令和6年9月2日（月）10時00分～11時00分

【場 所】 岐阜市役所6階 6-2会議室

【出席者】

（委員）加藤 義人委員長、小林 宏委員、棚瀬 友啓委員、長合 孝司委員、
＜オンライン出席＞ 長谷川 洋一委員（委員長代理）

（岐阜市）若山企画部長、山本企画部次長、

田中企画部総合政策課大学改革推進室長 他

（岐阜薬科大学）原学長、杉原薬科大学事務局長、久富大学法人化推進審議監 他

1 開会

2 議事

- ◆岐阜市公立大学法人の中期目標（素案）について
（事務局から資料に基づき説明）

○加藤委員長

- ・説明のあった中期目標（素案）は、前回、骨子に対して委員の皆様からお寄せいただいた意見を踏まえて作成されたもの。私の所感として、前回の各委員の発言をうまく反映しながら作成されていることが読み取れると思っている。
- ・この文書形式で成案まで練り上げていきたいということなので、大小含め、大所高所から本日もご意見をいただければ幸い。委員全員からご意見をいただきたいと思う。

○棚瀬委員

- ・前回、病院薬剤師の確保に非常に困っていると述べたことについて、文章に反映いただきありがたい。
- ・少し細かいことで恐縮だが、2ページ「ア 共通」の「入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）」についてである。求める学生を輩出するため、入口で適正な人材を受け入れないと適正な教育が行えないことや、点数だけではなく人柄や学習に対する向上心も見ることについても考慮されているものと思う。最近、ネットなどで大学と中高の連携強化が盛んに述べられている。理系は中高生にアピールしやすいと言われており、文系だと伝わりにくい、理系だと機械を見せたり実際に大学を見学したりすることができて伝わりやすいということである。しかし、そのような取組も高校からではもう遅く、中学生のうちから理系に興味を持ってもらい、高校では薬学や創薬へ関心を誘導したり、関心の掘り起こしを行ったりというようなことが各大学で行われて

いると耳にする。こうした取組について、薬大ではどのようにお考えか。

○加藤委員長

- ・本件について、事務局と薬大のどちらから回答いただくのがよいか。

○原学長

- ・薬大から申し上げる。点数だけで測りきれないのは仰るとおりである。薬大では入試要項にアドミッションポリシーを記載して求める人材を明らかにしており、特に推薦入試において、受験生にも理解したうえで入学してほしいと考えている。
- ・しかしそれだけでは十分ではないので、オープンキャンパスや岐阜市内を中心とした高校への出前講義の実施、高校生からの質問対応等を行っている。高校生と話す機会には必ずアドミッションポリシーをベースにした話をしており、高校の入試担当の先生方に向けた説明会を名古屋と岐阜で行う際も、アドミッションポリシーを基本とした説明を行っている。将来、薬剤師となり、医療に携わる非常に責任が重い職業に就く可能性が高いので、入学前からそうしたことも伝えるように努力している。
- ・小学生・中学生を対象に科学塾を開いており、楽しみながら薬学を学び、科学に興味を湧くような取組みを行っている。今後も機を見て更に実施していきたいと考えている。

○加藤委員長

- ・事務局から補足があればお願いしたい。

○田中大学改革推進室長

- ・ご指摘の観点では、岐阜市の中でも、中期目標に学生の視点に立った文章をもう少し盛り込んでどうかと議論していたところ。学生の目線に立ち、高校生に対し大学への関心が高まるような取組みを行うことについても追記することを検討したい。

○加藤委員長

- ・棚瀬委員のご指摘は、小、中、高校生の若い市民に対し、大学に対する関心を涵養する活動を行うことについてであったと思う。本日提示された資料には、アントレプレナーの箇所に関連連携についての記述はあるが、そのような取組みのほか、薬大や創薬に対する関心を若い時期から涵養するための活動について目標に入れなくてよいのかというご指摘だったように思われた。
- ・出前講義など、薬大では既に様々な取組みをしておられるとのことだったので、そのような取組みを位置づける記述がどこかにあってもよいのではない

か。適切な記載場所を今、示すことはできないが、ご検討いただきたい。
そのようなご対応でよろしいか。（棚瀬委員より「よい」との回答。）

○長合委員

- ・自身の事務所は社労士事務所も兼ねている。今、働き方改革が非常に取りざたされているので、それについて「業務運営の改善及び効率化に関する目標」のところに加えてはどうか。
- ・細かい話だが、4ページの「学生への支援に関する目標」に「ハラスメント行為その他の人権侵害行為を防止し」とあり、5ページの「法人運営の強化に関する目標」にも同様の記述がある。強調のような意図があるのであればそれでよいが、「コンプライアンスの強化」辺りで一つにまとめても見やすいのではないか。
- ・6ページの「自己収入の確保に関する目標」に関し、他の公立大学法人の中期目標を見ると、財源確保のために資金運用を積極的に行うといった記述もあったが、その点について薬大ではどのようにお考えか伺いたい。

○加藤委員長

- ・ハラスメント防止に係る記載に関するご指摘について、事務局から回答いただきたい。

○田中大学改革推進室長

- ・ハラスメント防止に係る記載については、教職員向けと学生向けの働きかけという意味で書き分けを行っている。また、学生向けの部分は、学生を守るという視点を強調する意図で、あえて法人経営ではなく学生への支援に関する目標に書いたものだが、わかりづらければもう少し編集を加えることも考えられると思う。

○加藤委員長

- ・ご趣旨は理解した。理解できる書き分けであるので、このような書き方もあるとは思いますが、「弾力的かつ適正な人事制度」の箇所は、やはり評価と、優れた評価がなされた人材を積極的に登用するという点に最も重きを置くべき項目かと思うので、その点改めてご検討いただきたい。
- ・資金運用に係るご質問についてはどうか。

○田中大学改革推進室長

- ・将来的には重要になってくるものと思っているが、資金運用はある程度余裕資金が発生してから行うものであるため、法人立ち上げ当初はなかなかそこまでの余裕資金が生まれないのではないかと。寄附金などであれば初年度、2年度

目でも発生する可能性はあるが、第1期に掲げるには少し目標として高いと思われたため、記載しなかった。法人に目指してほしいとは思っている。

○長合委員

- ・承知した。確かに、立ち上げ時は運用するロットも財源もあまりないかもしれない。

○加藤委員長

- ・働き方改革については、言葉そのものを入れると現状に対して改革することになるため、最初の目標としては少し書きにくいかもしれないが、6ページの「業務の効率化・高度化に関する目標」に「不断の点検、見直しを行い、効率的かつ合理的な業務運営を推進する」とあり、こうしたことに、生産性を上げることで業務意欲を高めたいという趣旨が加わると、いわゆる「働き方改革」を理念的に受け止められるのではないかと思うので、ご検討いただきたい。そのような対応でよろしいか。（長合委員より「よい」との回答。）

○長谷川委員

- ・まず2ページ「1 教育に関する目標」の「ア 共通」に、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3つのポリシーについて「継続的に評価・改善を行い、」とある。ここは3つのポリシーについてのみ評価・改善を行うというように読めてしまうが、先ほどの事務局の説明では3つのポリシーに基づいて評価・改善を行うということであった。書き方として「基づいて」という言葉があった方が、ポリシーに沿って実際の教育の中身について評価・改善を行うという読み方ができるのではないかと思うが、案文の意図としてはどうか。

○加藤委員長

- ・この点について、事務局から回答願いたい。

○田中大学改革推進室長

- ・この箇所については、記述ぶり、ご説明共に少し不十分だったかもしれない。3つのポリシーに基づいて教育内容の向上を図ることは当然のことと認識していたため、その点が明確に読めるような記述になっておらず、3つのポリシーを必要に応じてきちんとブラッシュアップしていく意識を常に持ってほしいという意図を表した記述になっている。しかし、ご指摘のとおり3つのポリシーに基づいた教育内容の向上を行うことについても、明確に見えてこないことは望ましくないため、両方の意図があることが分かるように修正したい。

○長谷川委員

- ・3つのポリシーの位置づけについては私も同意見である。3つのポリシーを一度決めたら変えないということではなく、時代やニーズに合わせて見直していくことも含めて検討されるということで、承知した。
- ・同じく2ページ「イ 学部教育」に「高い課題解決能力を持つ自立した人材」とあり、「(2) 教育環境の充実」では「課題発見能力、問題解決能力」と書かれている。問題解決を図るには何が課題かを発見する能力も必要であるため、後者はすんなりと読めたが、前者においても課題解決能力だけではなく、問題や課題の発見能力といったことも併記してはどうか。

○加藤委員長

- ・発見と解決の併記のほかに、問題と課題という言葉の使い分けもあるが、事務局ではどのようにお考えか伺いたい。

○田中大学改革推進室長

- ・ご指摘の箇所において問題と課題という言葉に使い分けの意図はなかったため、「イ 学部教育」の箇所を発見と解決の両方が重要であるという形に修正したうえで、平仄を合わせるように修正したい。

○長谷川委員

- ・ご検討いただけるということで承知した。
- ・6ページについて、修正や検討というよりは今後につながる観点だと思うが、教学マネジメントの確立が求められている中で、教学 IR や FD・SD の活動は非常に重要であり、中でも教学 IR は、先ほどの3つのポリシーの評価にも関わるが、質の向上において大変重要になっている。量的な分析は比較的やりやすいと思うが、質的な分析は非常に難しくやり方が重要だと思うので、指標を立てる際、ぜひ量だけではなく質についてもご検討いただきたいと思います。

○加藤委員長

- ・量的分析に寄った記述で終わってしまうことに対する懸念についてのご指摘かと思う。一度ご検討いただければと思うが、事務局からコメントがあればいただきたい。

○田中大学改革推進室長

- ・指標となるとまさに中期計画の作成に関わってくる。定量的なわかりやすい評価を志向すると、どうしても質的な部分のカバーが難しくなることもあり、難しい部分ではあるがご指摘を受け止めてしっかり検討していきたい。

○加藤委員長

- ・素案に対しては、先ほど申し上げたように、前回の議論を踏まえて推敲を重ねられているという印象を持っており、非常に好感を持って拝見した。その上で、禅問答のようで恐縮だが、1 ページの「基本的な目標」の2には地域連携について重要な内容がうまく書かれていると思う一方、前回、地域への貢献とグローバルな活躍の両面が重要だという議論があり、それを踏まえて考えると、東京や海外にいて岐阜市と連携するという地域貢献のパターンもあれば、岐阜市に根ざして定着しながらグローバルな活躍をするというパターンもあり得ると思われる。理想は、薬大を卒業した学生が、創薬研究の分野で岐阜市に根を下ろしながら世界的な科学者として活躍するといったことかと思う。このような観点から、基本的な目標に「地域に根ざす」という表現が入るとよいのではないかと。単に「連携」と書くと、意地悪に考えれば岐阜市と連携するのであればどこに行ってもよいと読めるように思え、少し引っかかりを覚える。
- ・2 ページ以降には「地域」という言葉が随所に出てきており、その一つ一つを「地域に根ざす」と書くのは適切ではないと思われるので、冒頭の「基本的な目標」にそうした概念を組み込めたらよいと思うが、事務局はどう思われるか。

○田中大学改革推進室長

- ・これまで委員とのご議論を経て、地域での活躍とグローバルな活躍は必ずしも二律背反ではなく、場所としての地域・グローバルに加え、マインドとしての地域・グローバルもあると認識している。
- ・例えば前文の第2パラグラフの「地域を支える専門人材やグローバルに活躍できる人材の育成」において、「地域を支える専門人材」という表現は地域に留まって活躍する人を想起させられると思われる。一方で、グローバルに活躍する人材という表現が非常に多義的であるということを踏まえて案文を見直すと、「地域に根ざす」というマインドとしての地域人材については明示的に書かれていない。「基本的な目標」にそのような視点を加えた記述を考えたい。

○加藤委員長

- ・一度ご検討いただきたい。地域に根ざすという視点について、具体的には4 ページ「地域社会の医療・保健・福祉への貢献」の「地域における病院等での薬剤師人材確保に貢献する」はまさに典型であると思うが、もう少し広い概念で、地域に根ざしながらグローバルに活躍する人材を作っていくことについて、基本的な目標に入るとよいと思う。

○小林委員

- ・「2 研究に関する目標」に「(1) 新薬開発を始めとする研究力の向上」とある。「新薬開発においては」というくだりがあるのでこのままでもよいかもしれ

れないが、薬学研究というのは新薬開発がすべてではないため、新薬開発のみを特筆することに違和感がある。薬大はどのようにお考えか伺いたい。

○原学長

- ・小林委員の仰るとおり、研究には新薬開発だけではなく、育薬や製剤的な工夫、サプリメント等の健康食品も含まれる。それらを含めての研究力向上という考えであり、「新薬開発をはじめとする」という表現は、それら新薬開発以外の研究についても含まれているという理解である。

○小林委員

- ・研究の内容についてのみ申し上げたのではなく、教育等も含めた観点から見ると、様々な分野の研究や教育があると思うので、そのような意味で申し上げた。

○原学長

- ・研究内容にフォーカスしすぎたご回答になってしまったが、製造研究のほかに臨床研究もある。研究には二種類あり、生物学的な実験を行うウェット研究と、過去のデータや臨床の結果を見て考察するドライ研究がある。それらも研究において大事なポイントであり、研究の中に当然入ってしかるべきものだと思うので、事務局と書きぶりを相談したい。

○加藤委員長

- ・一度ご検討いただければと思う。新薬開発に特化しているという印象を受ける文章について、総合的な領域にフォーカスしていることが読み取れるように工夫していただければと思う。
- ・他にご意見がなければ、今回は中期目標の最終案ということになるので、それに向けて事務局において内容を検討し、次回ご報告いただきたい。

3 閉会

○田中大学改革推進室長

- ・いただいた指摘を整理して、今回は中期目標の最終案をお示しするとともに、中期計画の素案についてもご意見を伺いたい。
- ・次回会議は10月22日（火）13時30分の開催予定なので、よろしくお願いする。ご都合の悪い委員については、事前に意見をいただくなどできれば幸い。